

## 東京八王子西ロータリークラブ会長賞

伊藤 ゆいな(いとう ゆいな) 七国小 3年生

作品名: にげたいわたし、にげないわたし

図書: ふしぎ駄菓子屋 銭天堂2

わたしは、ピアノの練習がきらいです。なぜなら、毎日毎日同じことをくり返す練習がたいくつだからです。さらに最近はどんどん曲が長くなってきて、ひくのが大変だし、♭や♯がたくさんついていてむずかしくなってきたからです。

そんな時に読んだのが『銭天堂』の話でした。表紙に色とりどりのだかしがたくさん並んでいて、見ているだけでもワクワクした気分になりました。

「もしもわたしが銭天堂に行くことができたなら、『ミュージックスナック』を買うのになあ。」

と思いました。

この本の主人公のひびき君も、わたしと同じようにピアノの練習がきらいです。そんなひびき君の前に銭天堂の店主、紅子さんがあらわれ、『ミュージックスナック』をもらいます。ミュージックスナックを食べてモーツァルトの曲がスラスラとひけるようになったひびき君は、コンクールにいどみます。

わたしもひびき君のようにスナックを食べたいと思いました。毎日つらい練習をしなくても上手にひけたら、どんなに楽だろうと思うからです。有名な曲やむずかしい曲がスラスラひけたらうれしいし、友だちに自まんもできて、きっといい気分になれるはずです。

でも、ひびき君がコンクールで大失敗してしまう場面を読んで、自分を応援してくれる人や大切な人をうらぎるおそろしさを知り、怖くなりました。努力をせずにずるをしてコンクールに出ても、それは本当の自分の力ではないからです。

その事に気づいたひびき君は、スナックを食べるのをやめて、きらいな練習もがんばって取り組むようになりました。わたしもこの話を読んでからは、大きらいだったピアノの練習も、毎日時間を決めてやるようになりました。むずかしくてわからないところは、お母さんに聞いて練習しています。毎日こつこつ練習をしたら、前よりまちがえるところが少なくなって、上手になったような気がしました。

「上手にひけたね！」  
と先生やお母さんに言われるととてもうれしくて、  
「がんばったかいがあったな。」  
と思えます。だからこれからも上手になるように練習したいと思います。